



## 石油ストーブ火災

### CASE 1 洗濯物がストーブに落下し出火

■室内干しをしている洗濯物が反射式ストーブ上に落下し着火、他の洗濯物に燃え広がり住宅が全焼。さらに火を消そうとした住民がやけどを負いました。

はじめは濡れていて、しっかり固定されているように見える洗濯物も、乾くことで摩擦力がなくなり、下に落ちやすくなり非常に危険です。



### CASE 2 間違ってガソリンを給油

■ポリタンクに入った灯油がなくなったため近くにあった携行缶のガソリンを灯油とまちがえて給油。しばらくしてストーブから爆発的な炎が噴出、住宅を全焼しました。

ガソリンは常温でガス化し、ちょっとした火種でも一瞬で燃えるので、絶対にストーブに給油しないよう、灯油とは分けて保管しましょう。



間違いを防ぐため  
保管場所を分けましょう

### CASE 3 給油時に灯油がこぼれ出火

■カートリッジタンクタイプの反射式石油ストーブ給油時の事故は、ストーブ火災の中で最も多い原因のひとつです。

右のようなことが原因で実際に火災になっています。

たとえ消火しても消火直後は燃焼筒のまわりが高温のままですので、灯油をこぼさないよう、給油時は特に慎重な取り扱いをお願いします。

消火しないまま給油

キャップのしまりが悪い

給油時に転倒

- ✓ 絶対にガソリンは入れない
- ✓ 消火直後の給油は慎重に
- ✓ キャップは確実にしめる

